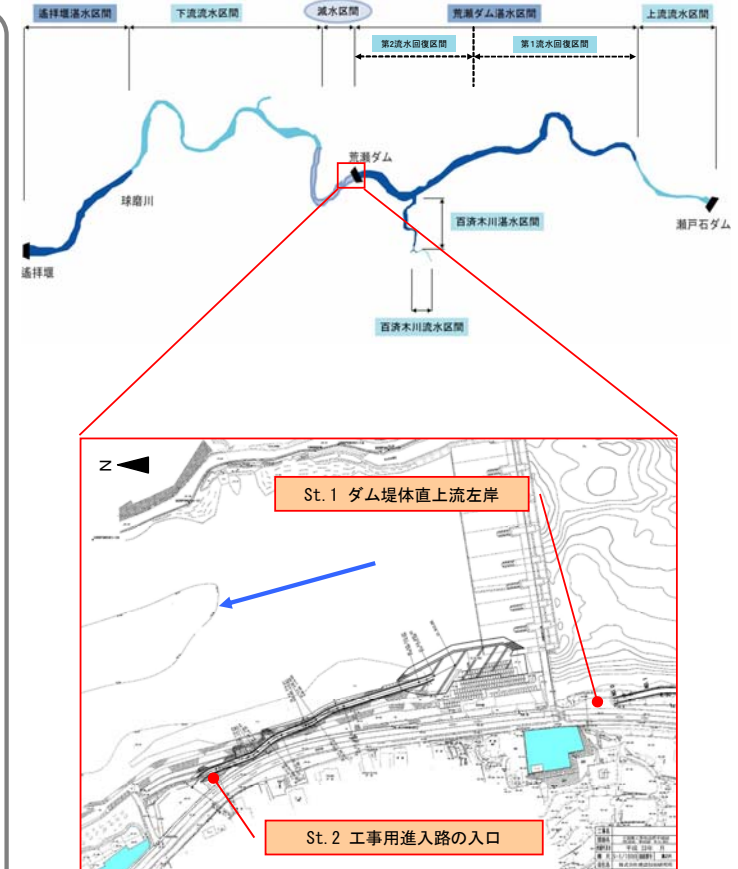
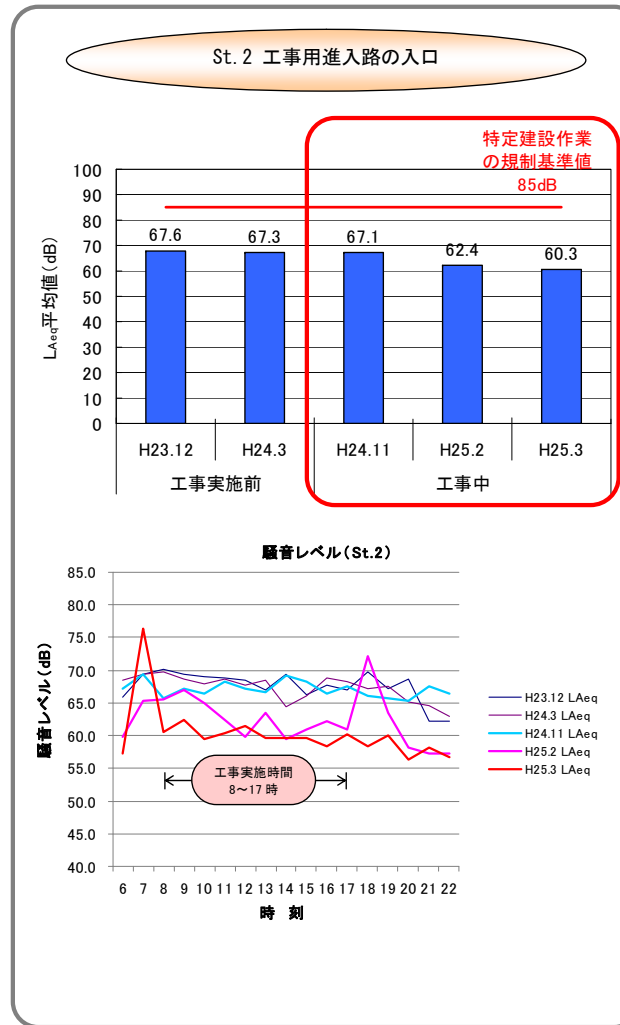
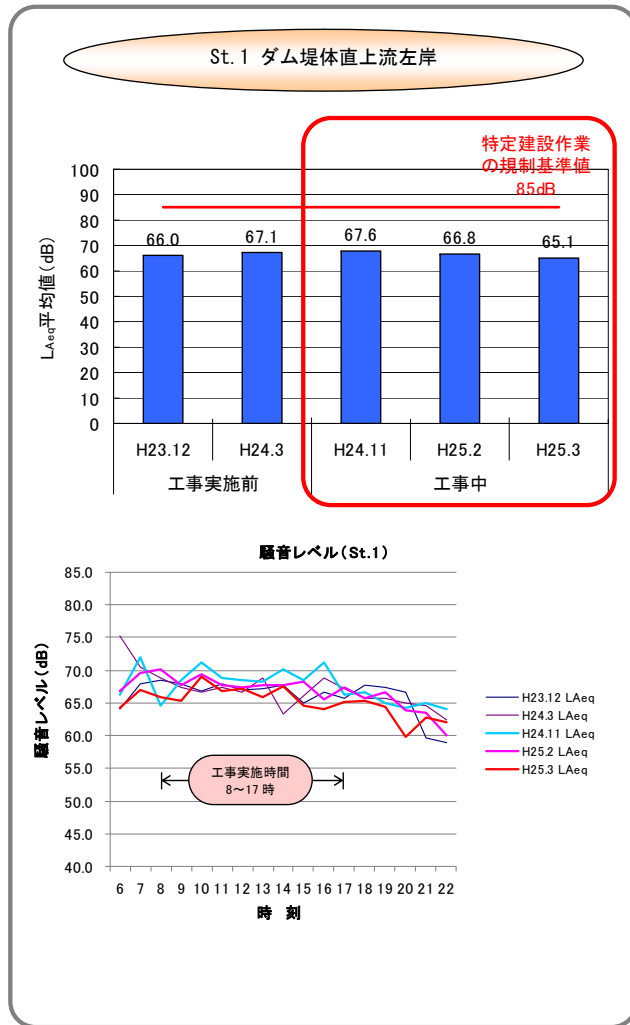


(10) 騒音

【参考資料 I-144～I-146 参照】

評価項目	視点	今年度の調査結果概要	評価概要
工事実施前と実施中の変化状況	工事の影響把握	今年度の工事実施中における等価騒音レベル L_{Aeq} の平均値の範囲は 60.3dB～67.6dB であった。地点別に見ると、St.1 は 65.1dB～67.6dB、St.2 は 60.3dB～67.1dB であった。	- 特定建設作業規制基準値の 85dB を約 20dB 下回るものであった。 - 工事前後の比較では、St.1 は、等価騒音レベル L_{Aeq} の平均値はほぼ同じであった。St.2 では工事後が低い傾向にあった。防音壁の設置等の騒音対策の効果があったと考えられる。

※工事期間のうち、建設機械の稼動が最大となる時期に実施した。具体的には、仮設進入路の造成時期及び放流工の掘削時期である。



【用語の解説】等価騒音レベル (L_{Aeq})

・騒音レベルが時間とともに不規則かつ大幅に変動している場合、ある観測時間内における騒音レベルの時間平均値を算出したもの。

